

トヨタ+名大病院＝医師向上



産業界をリードするトヨタ自動車と、名古屋大病院の管理手法を参考に医療現場の業務改善を考え実践する医師養成プログラム「ASUISHI（あすいし）」の第二期生の最終授業と修了式が二十日、名古屋市昭和区の名大病院であった。（室木泰彦）

プログラムは文部科 医師で、医療の安全性学省補助事業で、昨年と質を高めるため、各十月～今年二月の第一期施設代表の立場で研定期に続く。受講生二十人に励んだ。

三人は県内を含め全国各 うちメインコースの二十人は、七月からトヨタの品質管理部門担当者を講師に、計百四十時間のカリキュラムを受講。部署間連携による効率的で効果的な運営、患者の安全確保策などを学んだ。

各医師は自身の職場が抱える課題をテーマに選び、その解決策を研究。取り入れられるアイデアは導入しながら、改善を図った経緯

全国各地の医師20人が業務改善の成果などを発表した最終授業。名古屋市昭和区の名古屋大病院で

養成講座 2期生の修了式

や成果、今後の展望を順番に発表した。

患者の取り違えミス防止や待ち時間短縮、病棟での注射薬剤誤投与防止など、どれも待ったなしの重い課題ばかり。患者の転倒防止策を研究した医師は、転倒事例二百件を詳細に分析し、スタッフの目が届かない所で転倒が多いことを発見。改善のため建て替えて合わせ目の届きやすいレイアウトに変更し、レンタルでセンサーを増やし人員不足を補った対応を紹介した。

講師の古谷健夫・トヨタ自動車業務品質改善部主査は「トヨタは問題解決のための管理手法を愚直に五十年続けた。成果を病院内で共有することが大事で、喜びを感じるのが本当の改善」と助言した。受講医師に修了証が手渡された。